

いつも誰かがいて そこには

あたたかい笑顔がある

「地域の茶の間」

皆さんは、「地域の茶の間」という市民活動が広まりつつあるのをご存知でしょうか？

今月は、現在白石区で広がりを見せている「地域の茶の間」についてご紹介します。

「地域の茶の間」とは？

近年、近所同士の交流が希薄になり、隣に住む人の顔が分からない、見たことはあるが、あいさつ程度といったことが聞かれます。

今回紹介する「地域の茶の間」は、子育ての悩みを相談したり、お年寄りの話し相手になったり誰もが自由に集え、世代を越えた交流や、忘れられがちな地域での「ふれあい」「支えあい」を持てる場所として広がりつつあります。

この活動は、新潟市の河田珪子さんが平成9年に始めたものです。現在、新潟県はもとより全国へ広がりを見せており、白石区内でも、いくつかの「茶の間」が開かれています。

「地域の茶の間 公開サミット」

10月21日、本郷会館で「地域の茶の間を通した新しい場作りを考えよう」をテーマに



「地域の茶の間公開サミット」が開催されました。

これは白石区内で「茶の間」を開いている団体などが中心になり開いたものです。

サミットに先立ち、参加者に「茶の間」の雰囲気を感じてもらおうと「茶の間体験」が開かれ、80人以上の人々が集まりました。

「茶の間体験」では、テーブルを囲んで談笑している人やマジシャンをしている人のほか、子どもに絵本を読んでもらったり中学生とにこやかに話したりするお年寄りの姿なども見られました。

針仕事をしながらおしゃべりをしていたお年寄りは「茶の間に行ったら、ホッとする」「みんなで集まるとどんな物を作ろうか、いろいろなアイデアが出てくる。楽しい」と